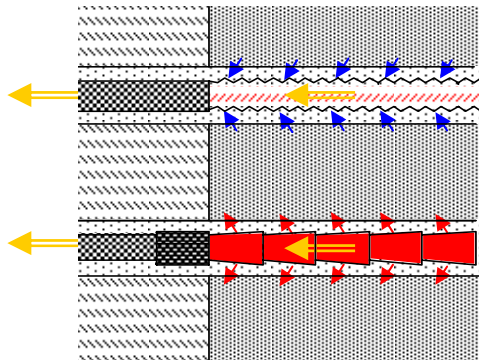


1.5.2 くさび型アンカーの摩擦強度について

くさび型アンカーの場合は、アンカー体と定着地盤との間に圧縮力が働くため、これと定着地盤の反力に応じた摩擦抵抗が得られ、その推定値は実験式(5.1.1)より求めることができる。



(c) 摩擦（引張）型アンカー体

アンカー体に引張力が働くため、テンドンとグラウト材、およびグラウト材と定着地盤との剥離が進行しやすい。

(d) くさび型アンカー体

アンカー体をくさび形拘束具とすることにより、アンカー体とグラウト材、およびグラウト材と定着地盤との間に圧縮力が働き、従来の摩擦型アンカーに比べて剥離の進行が抑制される。また、この圧縮力によりアンカー体と定着地盤との間に高い摩擦抵抗が得られ、より確実な引抜き抵抗力を確保できる。

図 5.2.1 アンカー体に作用する応力の違い

摩擦強度の推定方法

くさび型アンカー（摩擦強度による設計）の場合

$$\tau_w = 48.2 \ln(q_u) + 95.3 \quad (5.1.1)$$

q_u : 定着地盤の一軸圧縮強度

従来式摩擦型アンカーの場合

$$\tau = \frac{q_u}{10} \quad (5.1.2)$$